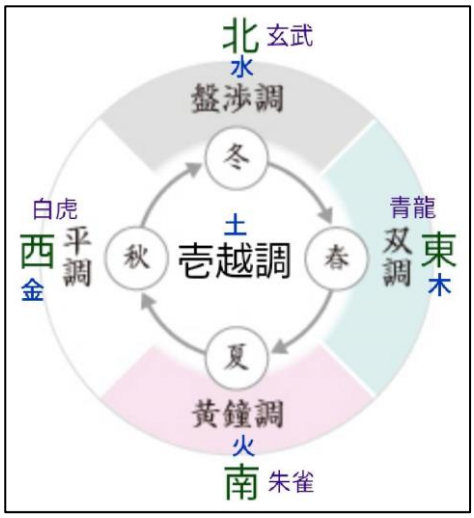
京都雅楽塾　丹波校　プロフィール

2018年３月及び12月に京都雅楽塾講師３名による雅楽コンサートを開催し、その翌年の春に京都雅楽塾丹波校を開校しました。以後、丹波の森公苑をはじめ植野記念美術館、春日文化ホール、各地域の神社等でステージ演奏を開催してきています。

現在、丹波校は、３名の講師陣のもと、30代～60代の９名の方が、氷上町井中にある教室（仲摩屋）で、月３回（火曜日19:30～21:00）、知識と技術を身につけるためお稽古に励んでおられます。

（問い合わせ先：070-4471-7401（仲摩））



演目（盤渉調）の説明

雅楽には「時（とき）の声」という言葉があります。これは、四季に応じた調子を音の雰囲気で楽しもうとすることを表しています。平安時代の雅楽の楽書には、「おほよそ心得（こころう）べきことは。時のこゑといふ事あり」と書かれており、春は「双調（そうじょう）」、夏は「黄鐘調（おうしきちょう）」、「秋は平調（ひょうじょう）」、「冬は盤渉調（ばんしきちょう）」、「太食調（たいしきちょう）」は平調に準じ、「壱越調（いちこつちょう）」は四季の始まりである土用になります。つまり、雅楽の六調子が四季に対応しているわけです。なお、これらのことを陰陽五行にあてはめると図のようになります。

本日は、「青海波（せいがいは）」に代表される哀愁のある節回しが特徴の「盤渉調」から「調子（ちょうし）」という曲を、合奏ではなく笙一管で演奏します。お楽しみください。

笙（しょう）の説明

指揮者のいないオーケストラである雅楽は音楽の原型とも言われ、千数百年前、シルクロードを渡って伝わりました。それがヨーロッパへ伝わるとパイプオルガンになり、そして、日本に伝わり「笙」となったのです。